

中津市
まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン

平成 27 年 10 月 策定

令和 2 年 3 月 一部修正

— 目次 —

【はじめに】	1
第1章【全国の人口・産業の現状】	2
1. 全国の総人口の推移	2
2. 全国の年齢3区分別人口の推移	3
3. 全国の産業の状況	4
第2章【大分県における人口・産業の現状】	6
1. 大分県の総人口の推移	6
2. 大分県の年齢3区分別人口の推移	7
3. 大分県の産業の状況	8
第3章【中津市における人口・産業の現状】	10
1. 中津市の総人口の推移	10
2. 中津市の市内地域別人口の推移	11
3. 中津市の年齢3区分別人口の推移	12
4. 中津市の高齢化率の推移	13
5. 中津市の合計特殊出生率の推移	14
6. 中津市の人口動態の推移	15
7. 中津市の年齢階級別人口移動の推移	18
8. 中津市の全国ブロック別人口移動の推移	19
9. 中津市の市内地域別人口移動の推移	21
10. 中津市の産業の状況	23
第4章【目指すべき将来の方向】	28
1. 中津市における課題	28
2. 目指すべき将来の方向	28
第5章【中津市の将来人口の推計】	29
1. 将来人口推計	29
【おわりに】	32

【はじめに】

人口ビジョンとは、地域の人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、目指すべき将来の展望を提示するもので、地方版総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付けられています。

中津市におきましても、総人口や年齢構成、産業構造の変化などの要因等を分析しながら課題を把握し、その課題が地域の将来に与える影響を分析・考察した上で、具体的な施策の柱と中津市の目指すべき将来の展望を示していき、必要な施策を講じていきます。

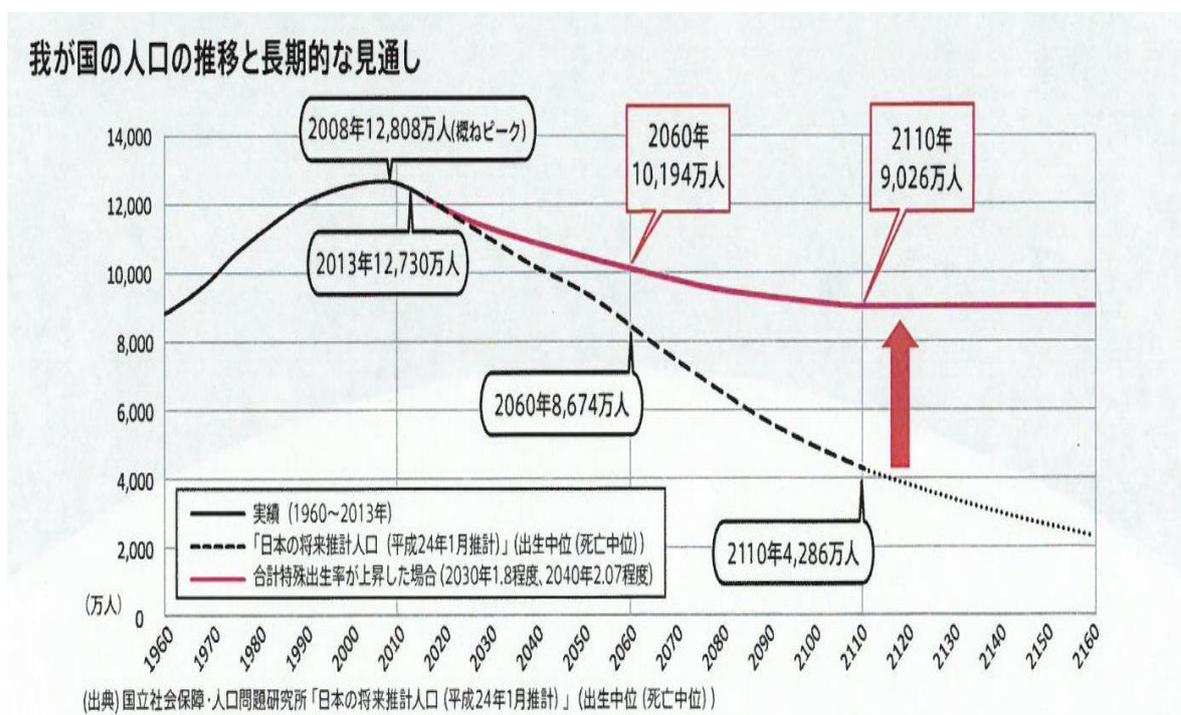
また、中津市版人口ビジョンにおける2060年までの将来人口推計については、始めに人口目標ありきではなく、課題を解決するために行う施策の積み上げの成果として表れる社会人口の増などを加味した上で推計していきます。

第1章【全国の人口・産業の現状】

1. 全国の総人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」と表記。）「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によりますと、2013年の日本の総人口が1億2,730万人であるのが、2060年には約8,700万人にまで減少すると見通されています。

仮に、合計特殊出生率（人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数）が、2014年の1.43が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の日本の総人口は1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計されます。



(注1)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

2110年から2160年の点線は2110年までの仮定等を基に、国のまち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものの。

(注2)

「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）となった場合について、国のまち・ひと・しごと創生本部事務局で推計を行ったもの。

2. 全国の年齢3区分別人口の推移

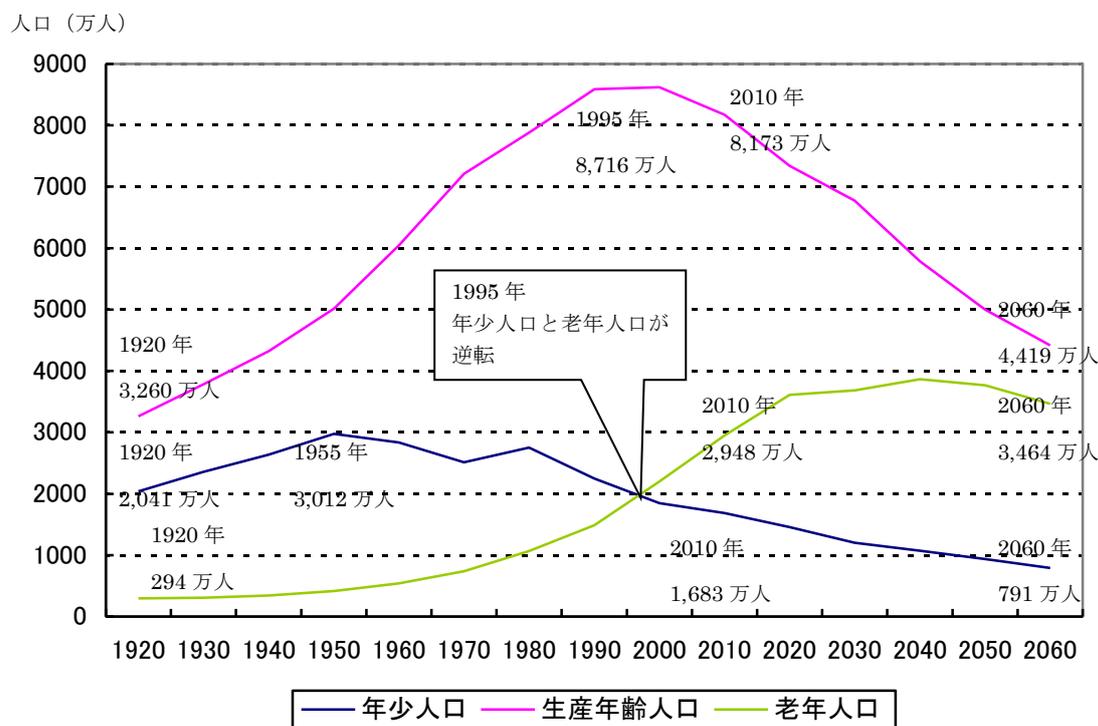
日本全体の年齢区分別人口は、年少人口（0歳から14歳まで）は1920年の約2,041万人から増加傾向にありましたが、1955年の約3,012万人を境に減少傾向になっており、2010年には1,683万人となっています。

また、生産年齢人口（15歳から64歳まで）は1920年の約3,260万人から増加傾向にありましたが、1995年の約8,716万人を境に減少傾向になっており、2010年には8,173万人となっています。

一方、老年人口（65歳以上）は1920年の約294万人から増加傾向にあり、2010年には2,948万人となっています。

社人研の推計では、2060年には年少人口が791万人、生産年齢人口が4,419万人、老年人口が3,464万人になると推計されています。

全国の年齢3区分別人口の推移



(注)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

実際の社人研の推計は2040年までとなっており、それより先の年次の推計は、2040年の諸率（生残率、純移動率等）をそのまま用いて推計した場合のものとなっている。

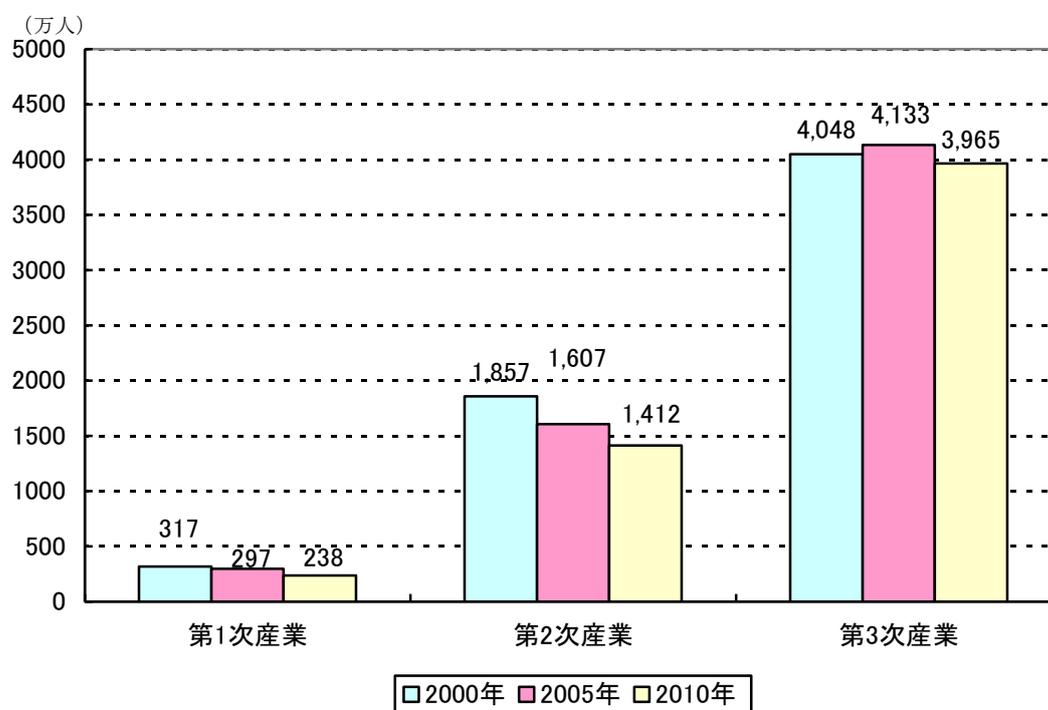
3. 全国の産業の状況

① 全国の産業3分類別就業者数の推移及び産業大分類別就業者数の状況

全国の産業3分類別就業者数の推移をみると、2000年以降では第3次産業はほぼ横ばいの状態となっていますが、第1次産業と第2次産業については減少傾向にあります。

また、全国の産業大分類別就業者数は、2010年国勢調査では「卸売業・小売業」が約980万人と一番多く、以下、「製造業」約963万人、「医療・福祉」約613万人、「建設業」約447万人の順となっています。

全国の産業3分類別就業者数の推移（2000年から2010年まで）

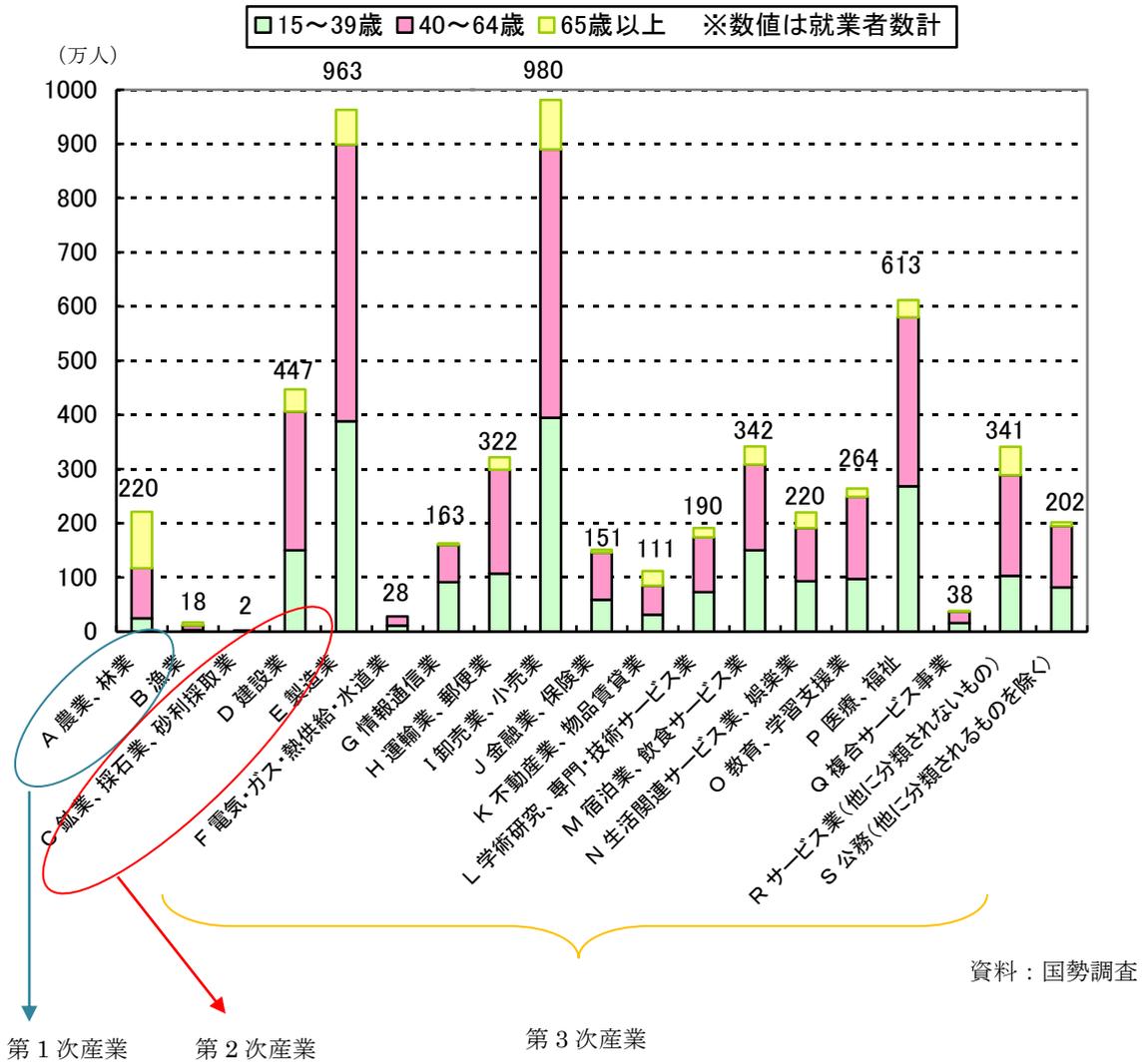


資料：国勢調査

(注)

分類不能の産業は除く。

全国の産業大分類別就業者数（2010年国勢調査）



(注)

分類不能の産業は除く。

第2章【大分県における人口・産業の現状】

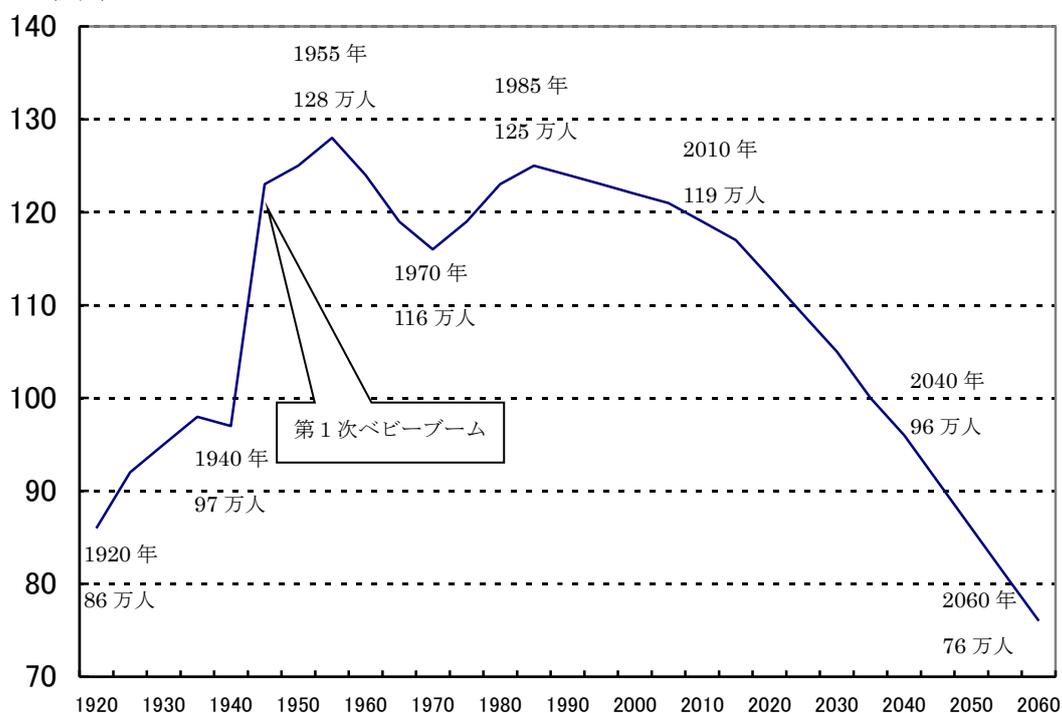
1. 大分県の総人口の推移

大分県の人口は、1985年の125万人を境に減少傾向になっており、2010年現在で119万人となっています。

社人研の推計では、今後も人口減少はさらに続くと見込まれており、2040年には96万人にまで減少すると推計されています。また、2045年以降については、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて2060年までの人口を推計した場合、76万人にまで減少すると推計されています。

大分県の総人口の推移

人口（万人）



(注1)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

実際の社人研の推計は2040年までとなっており、それより先の年次の推計は、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて推計したものとなっている。

(注2)

生残率：ある年齢の人が5年後に生存している確率

純移動率：特定の時期、場所における転入者と転出者の差を割合として算出したもの。

2. 大分県の年齢3区分別人口の推移

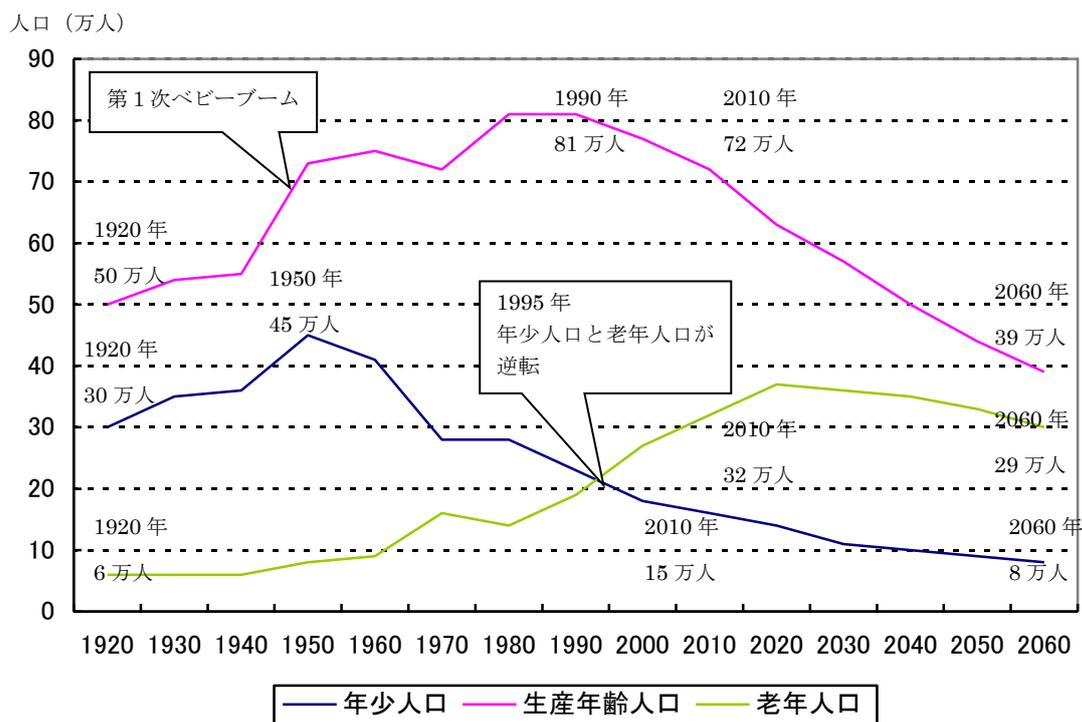
大分県の年齢3区分別人口は、年少人口（0歳から14歳まで）は1920年の約30万人から増加傾向にありましたが、1950年の約45万人を境に減少傾向になっており、2010年には15万人となっています。

また、生産年齢人口（15歳から64歳まで）は1920年の約50万人から増加傾向にありましたが、1990年の約81万人を境に減少傾向になっており、2010年には72万人となっています。

一方、老年人口（65歳以上）は1920年の約6万人から増加傾向にあり、2010年には32万人となっています。

社人研の推計では、今後も年少人口と生産年齢人口は減少傾向が続き、2060年には年少人口が8万人、生産年齢人口が39万人、老年人口が29万人になると推計されています。

大分県の年齢3区分別人口の推移



(注)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

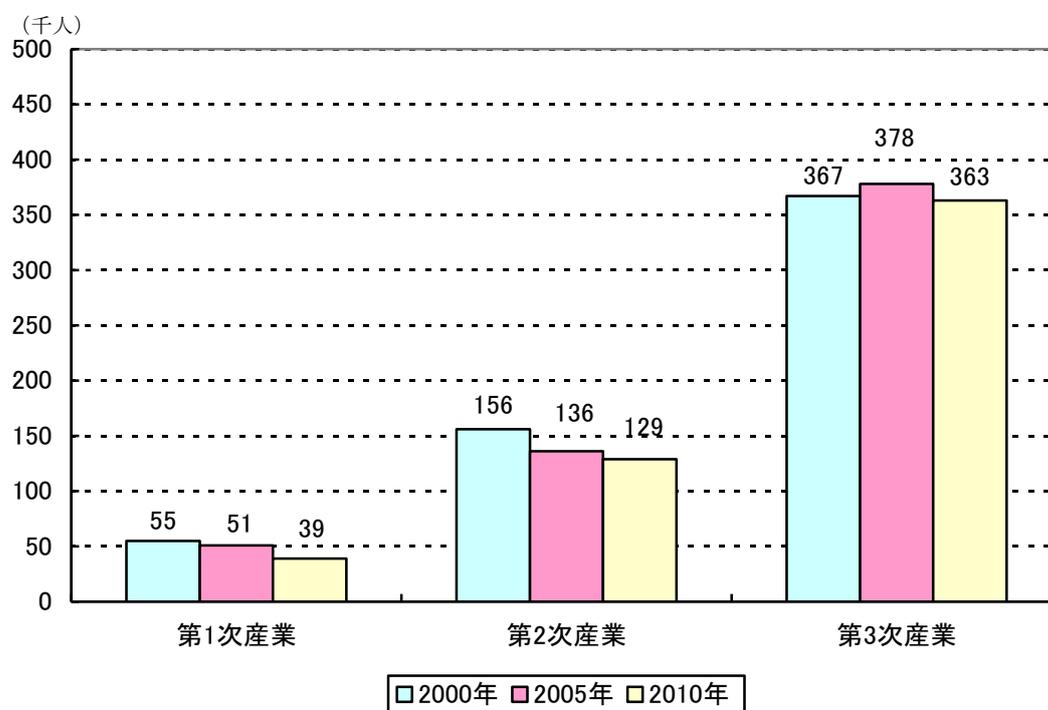
3. 大分県の産業の状況

①大分県の産業3分類別就業者数の推移及び産業大分類別就業者数の状況

大分県の産業3分類別就業者数の推移をみると、第3次産業はほぼ横ばいの状態となっていますが、第1次産業と第2次産業については減少傾向にあります。

また、大分県の産業大分類別就業者数は、2010年国勢調査では「卸売業・小売業」が約89千人と一番多く、以下、「製造業」約80千人、「医療・福祉」約74千人、「建設業」約49千人の順に多くなっています。

大分県の産業3分類別就業者数の推移（2000年から2010年まで）

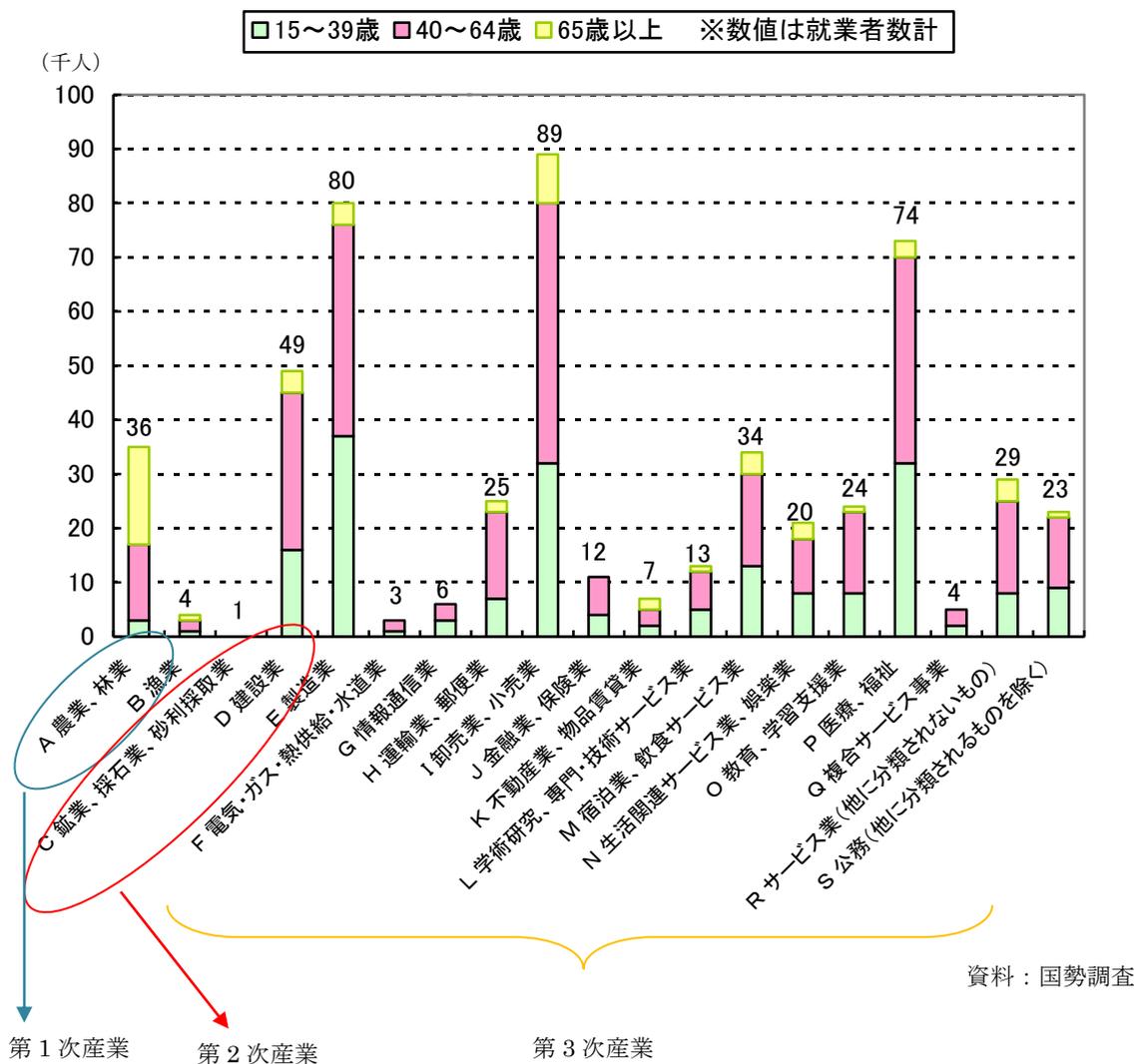


資料：国勢調査

(注)

分類不能の産業は除く。

大分県の産業大分類別就業者数（2010年国勢調査）



(注)

分類不能の産業は除く。

第3章【中津市における人口・産業の現状】

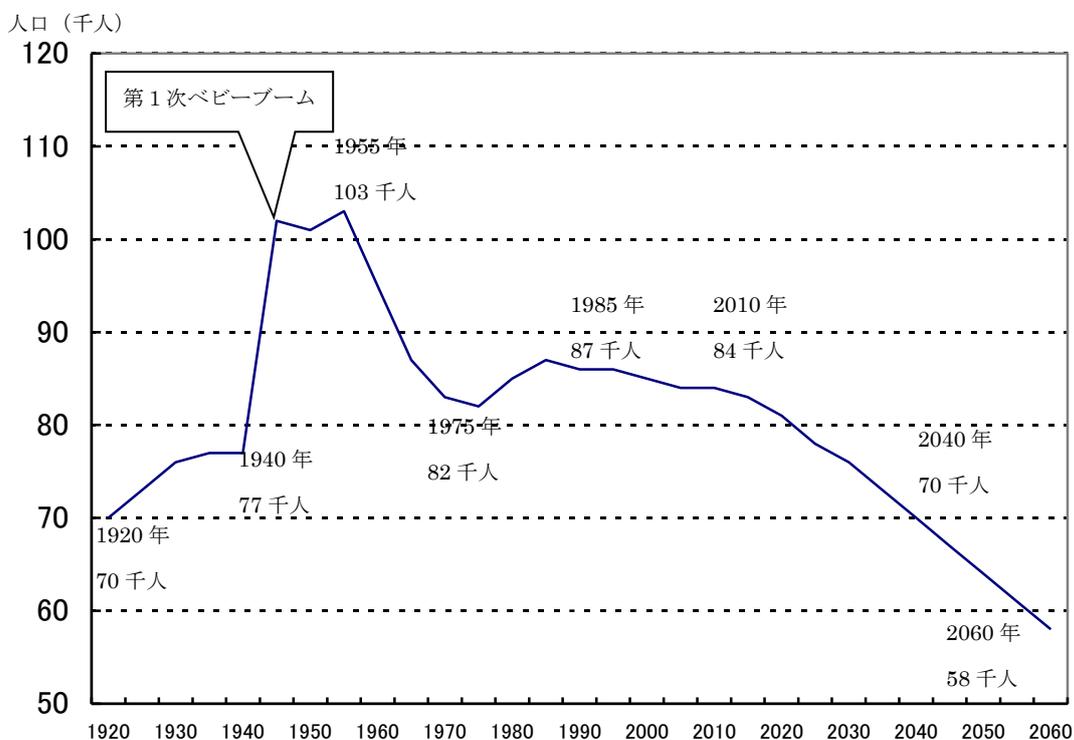
1. 中津市の総人口の推移

中津市の人口は、1955年の103千人をピークに減少傾向にあり、1975（年には82千人まで減少しました。

その後は増加に転じ、1985年には87千人となりましたが、その後は、わずかではありますが人口は減少傾向となり、2010年現在で84千人となっています。

社人研の推計では、今後も人口減少が進むと見込まれており、2040年には70千人にまで減少するとされています。また、2045年以降について、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて2060年までの人口を推計した場合、58千人にまで減少するとされています。

中津市の総人口の推移



(注1)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

(注2)

生残率：ある年齢の人が5年後に生存している確率

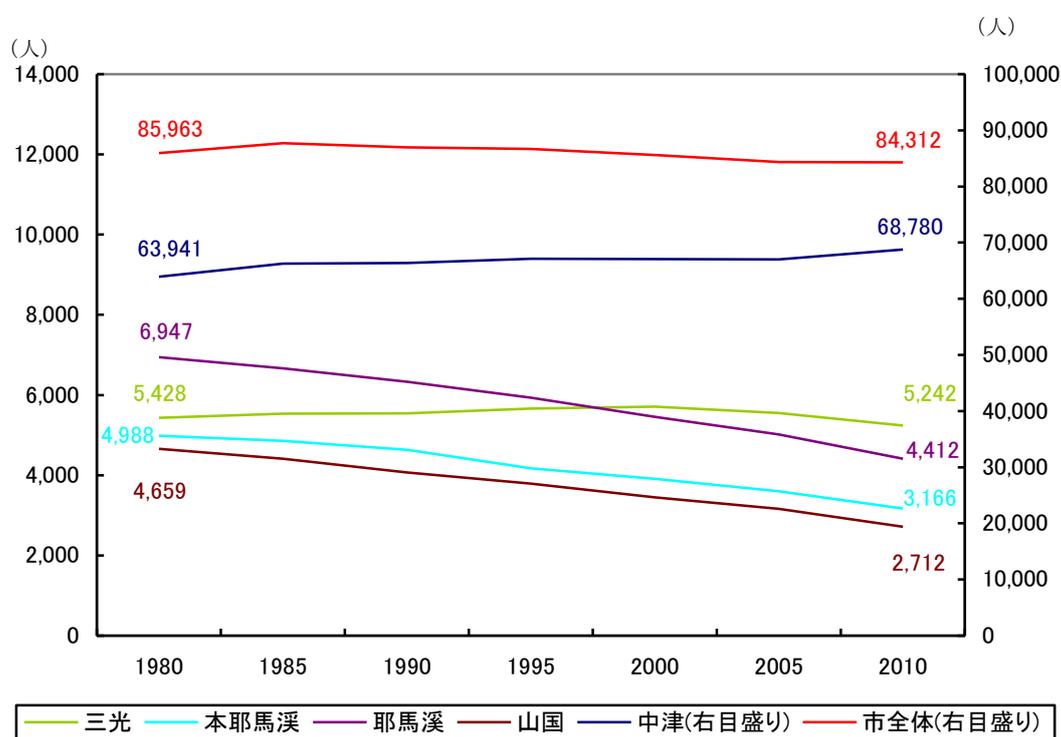
純移動率：特定の時期、場所における転入者と転出者の差を割合として算出したもの。

2. 中津市の市内地域別人口の推移

中津市全体の人口の推移は、1980年から2010年までは、人口減少傾向となっていますが、約85,000人前後で推移しています。

市内の地域別人口の推移を見ると、旧中津地域は微増傾向となっており、三光地域では横ばいとなっていますが、本耶馬溪地域、耶馬溪地域、山国地域については、人口減少傾向となっております。

中津市の市内地域別人口の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」

3. 中津市の年齢3区分別人口の推移

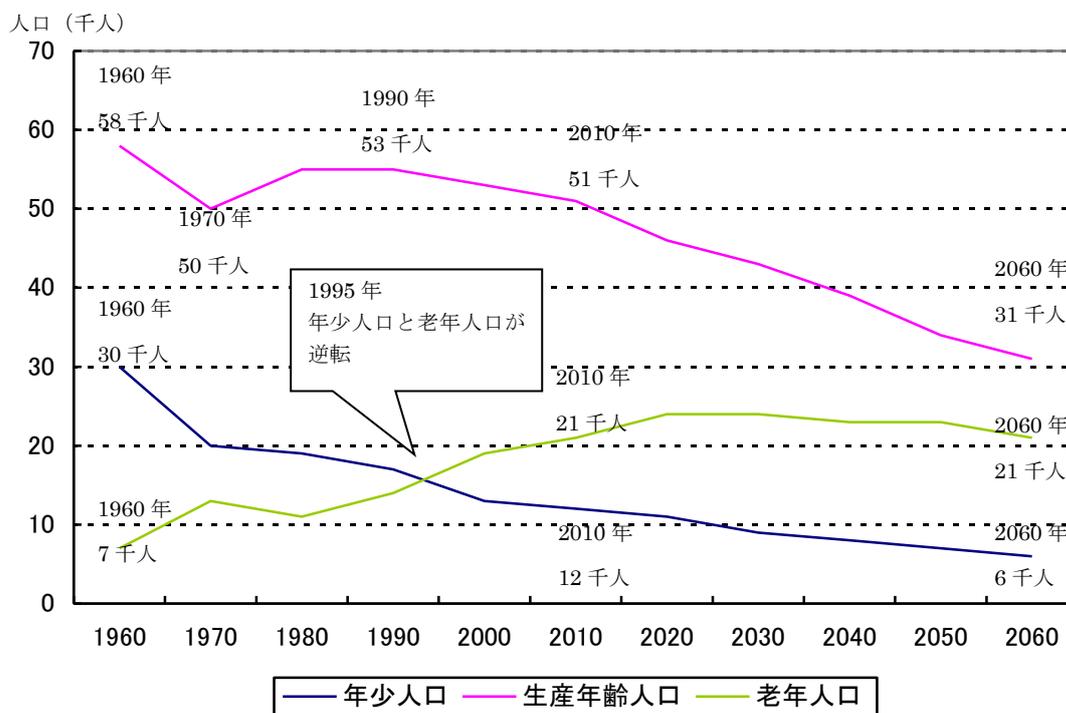
中津市の年齢3区分別人口は、年少人口（0歳から14歳まで）は1960年の約30千人から減少傾向になっており、2010年には12千人となっています。

また、生産年齢人口（15歳から64歳まで）は1960年の約58千人から減少し1970年に50千人となってからは増加傾向に転じましたが、1990年の約53千人を境に減少傾向になっており、2010年には51千人となっています。

一方、老年人口（65歳以上）は1960年の約7千人から増加傾向にあり、2010年には21千人となっています。

社人研の推計では、今後も年少人口と生産年齢人口は減少傾向が続き、2060年には年少人口が6千人、生産年齢人口が31千人、老年人口が21千人になると推計されています。

中津市の年齢3区分別人口の推移



(注)

実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

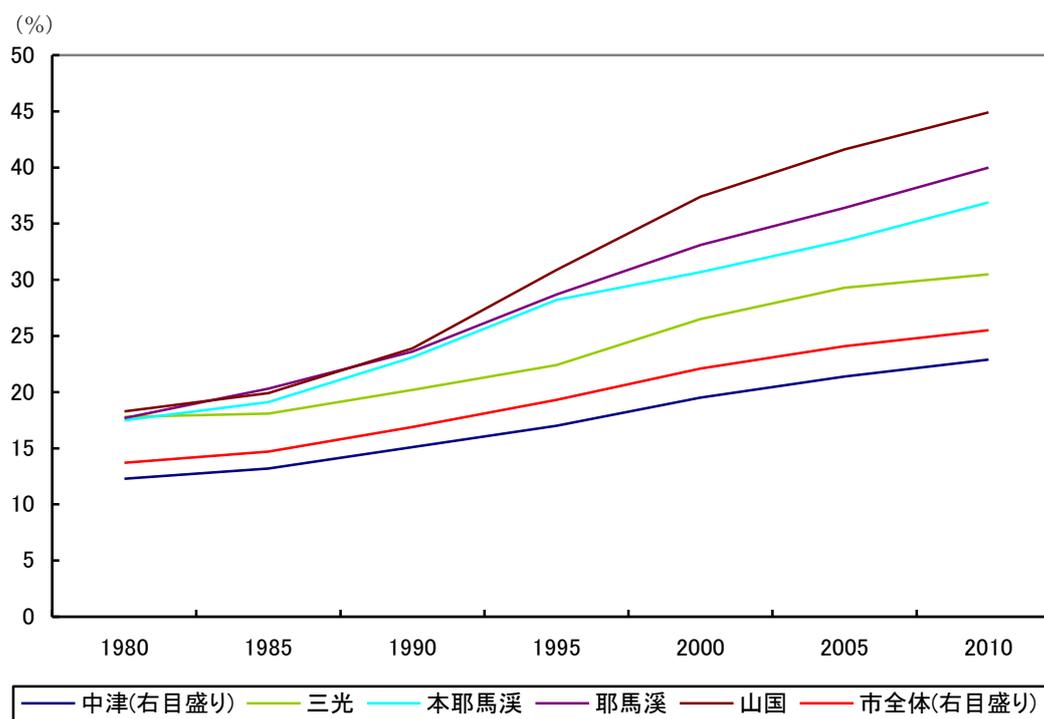
「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

4. 中津市の高齢化率の推移

中津市全体の高齢化率(総人口に占める65歳以上の割合)は、1980年の13.7%から増加傾向にあり、2010年には25.5%となっています。

また、地域別の高齢化率も年々増加傾向にあり、特に中山間地域では高齢化が進んで、2010年には高齢化率40%を超えている地域もあります。

中津市の高齢化率の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」

中津市全体

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
中津市	13.7%	14.7%	16.9%	19.3%	22.1%	24.1%	25.5%

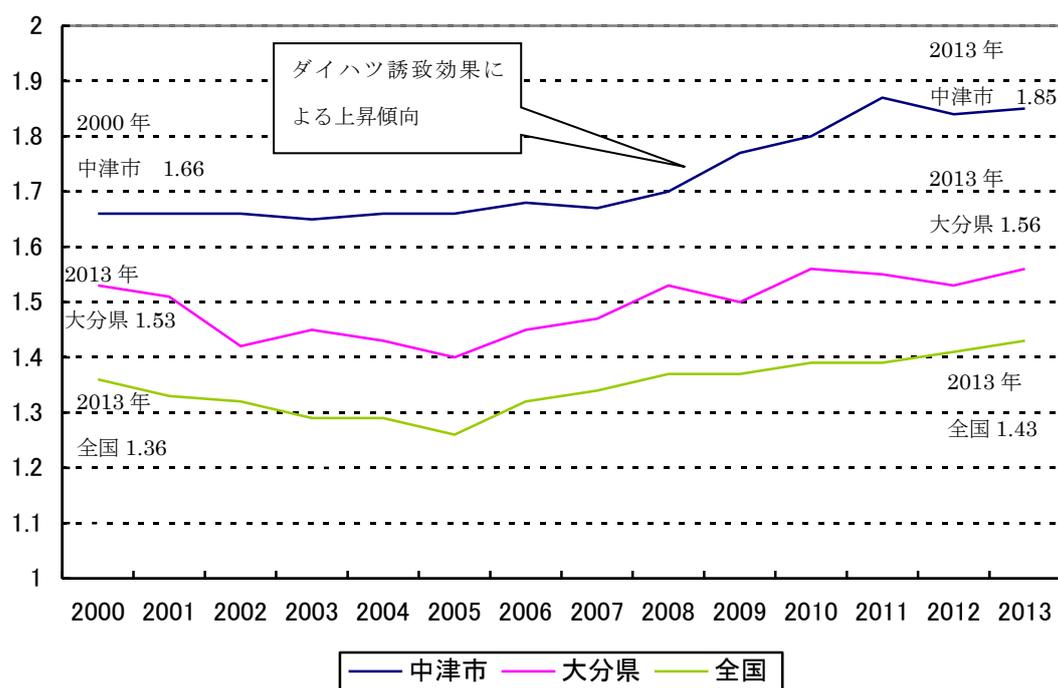
地域別

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
中津	12.3%	13.2%	15.1%	17.0%	19.5%	21.4%	22.9%
三光	17.8%	18.1%	20.2%	22.4%	26.5%	29.3%	30.5%
本耶馬溪	17.5%	19.1%	23.1%	28.2%	30.7%	33.5%	36.9%
耶馬溪	17.7%	20.3%	23.6%	28.7%	33.1%	36.4%	40.0%
山国	18.3%	19.9%	23.9%	30.9%	37.4%	41.6%	44.9%

5. 中津市の合計特殊出生率の推移

中津市の合計特殊出生率は、2000年以降すべての年で全国平均、大分県平均を大きく上回っており、2010年以降は国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」で示されている若い世代の結婚・子育ての希望が実現する場合に向上するとされている水準の合計特殊出生率1.8を上回っています。

中津市の合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態推計」、大分県統計年鑑

6. 中津市の人口動態の推移

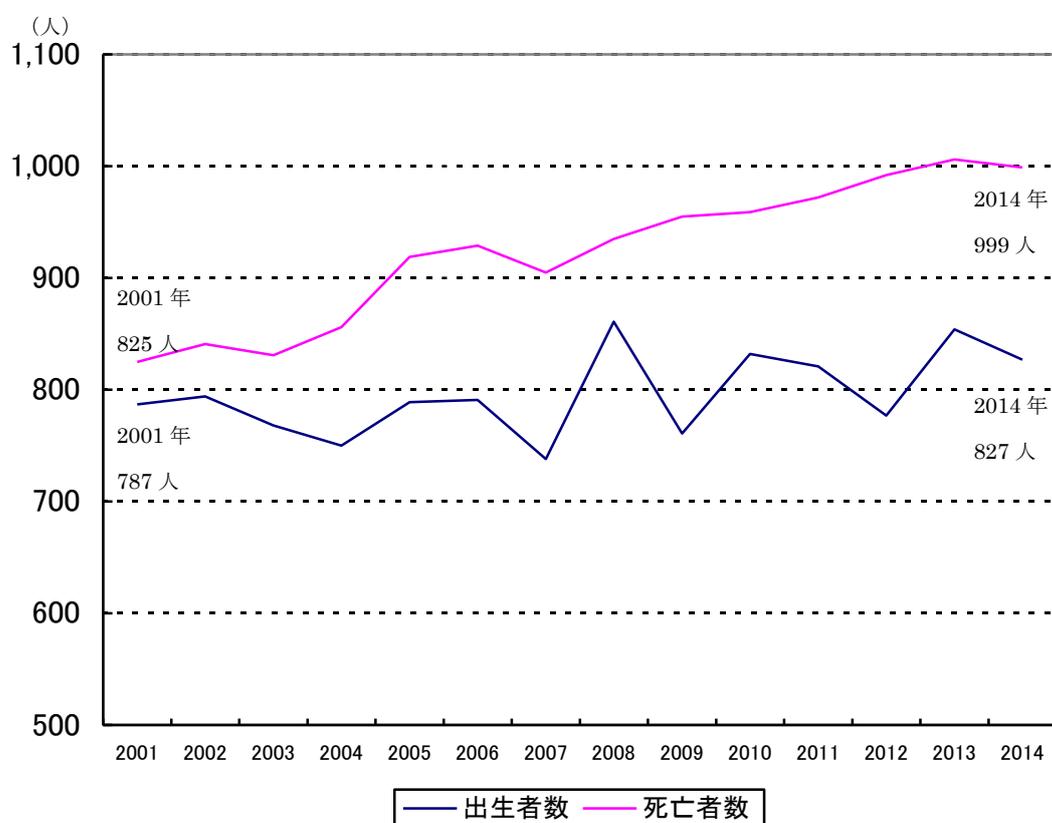
①出生者数及び死亡者数（自然動態）の推移

中津市の出生者数は、第3章5でも述べたように合計特殊出生率が高い水準で推移していることもあり、2001年以降800人前後の出生数で推移しています。

一方、中津市の死亡者数は、2001年の825人から年々増加傾向にあり、2014年には999人となっています。

中津市においては死亡者数が出生者数を上回っている状態（自然減）が続いており、少子高齢化のため今後もこの傾向は続くと推計されています。

中津市の出生者数及び死亡者数の推移



資料：中津市統計資料「市勢要覧」

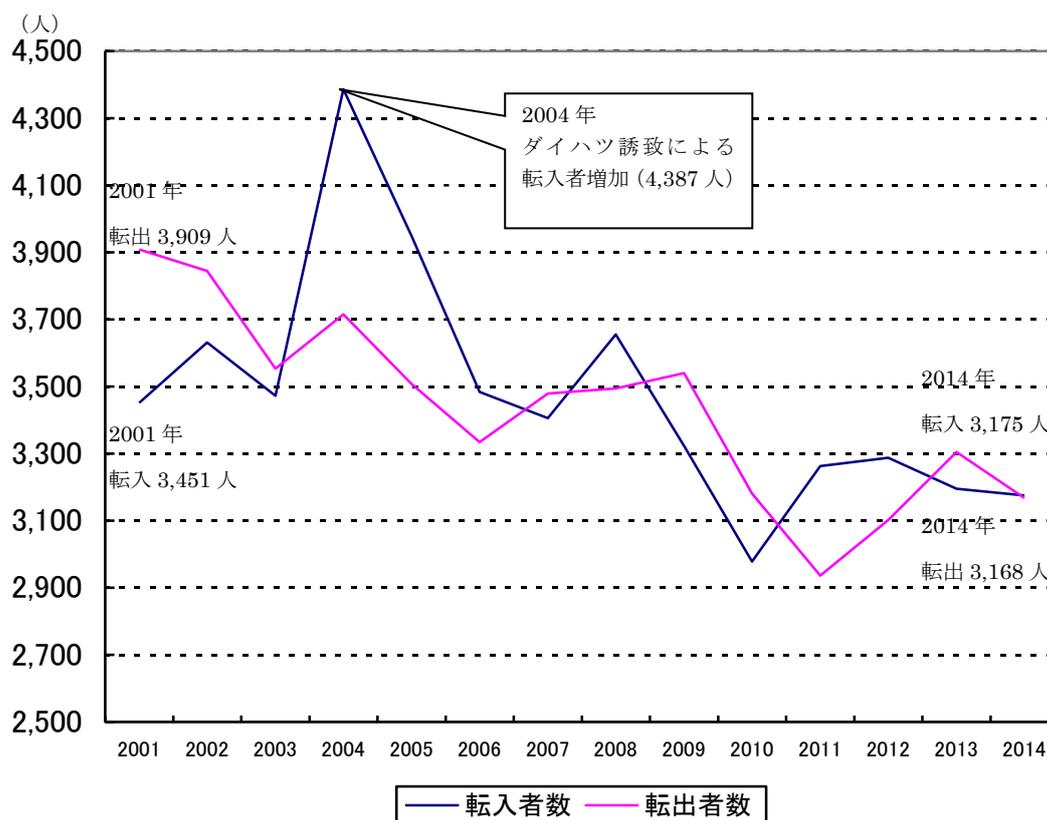
(注)

年の区切りは毎年、前年の10月1日から当該年の9月30日まで。

②転入者数及び転出者数（社会動態）の推移

2001年から転出者数が転入者数を上回っている状態が続いていましたが、ダイハツ車体株式会社（現：ダイハツ九州株式会社）誘致後は、転入者が一時的に大幅に増加しましたが、近年は転入転出とも3千人前後で推移しています。

中津市の転入者数と転出者数の推移



資料：中津市統計資料「市勢要覧」

(注)

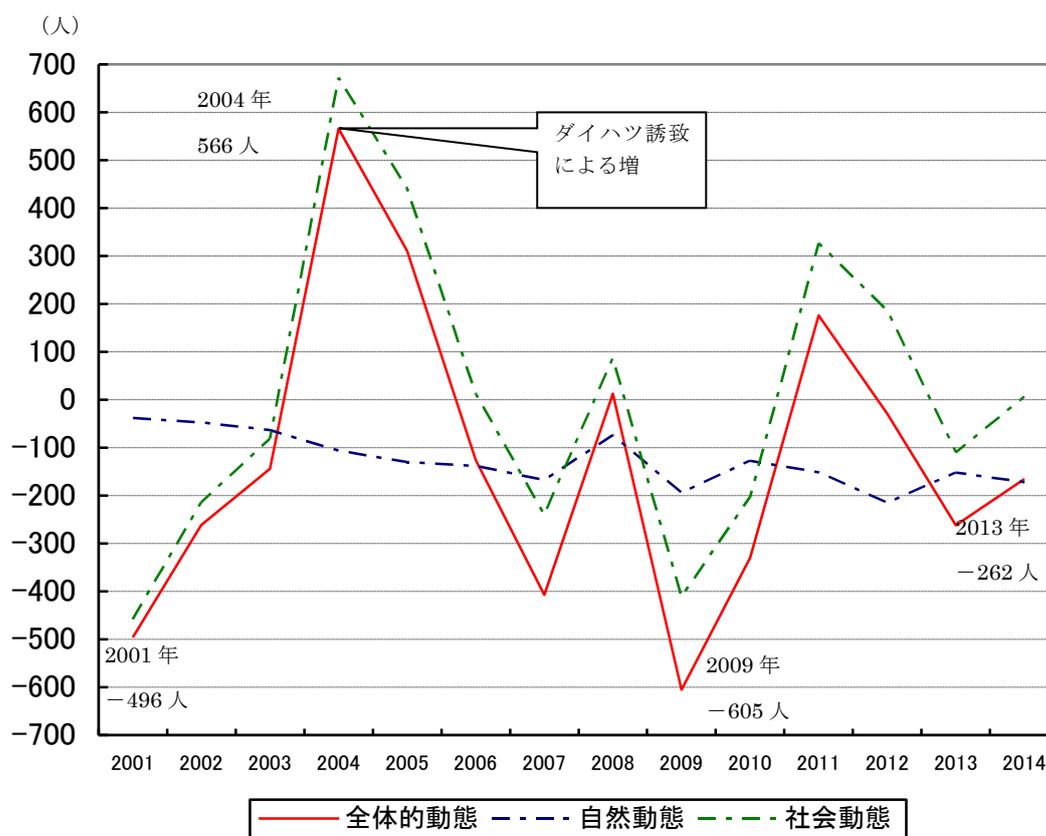
年の区切りは毎年、前年の10月1日から当該年の9月30日まで。

③人口動態（自然動態と社会動態の合計）全体の推移

中津市の人口動態については、自然動態は年々減少していますが社会動態に比べると人数が少ないため、全体の推移としては社会動態の推移と同じ傾向をたどっています。

①、②でも述べたように、社会動態については年によって変動がありますが、自然減の状態が続いている状況であるため、全体の人口としては、わずかではありますが人口が減少してきています。

中津市の人口動態の推移



資料：中津市統計資料「市勢要覧」

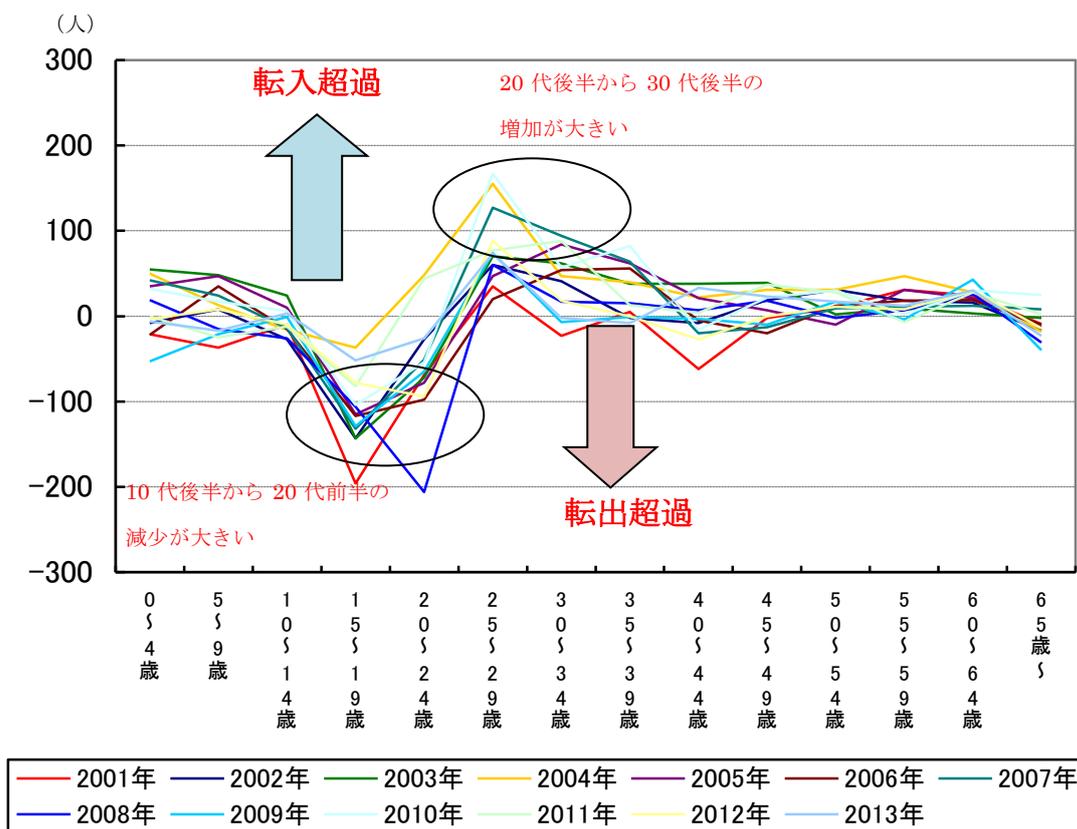
(注)

年の区切りは毎年、前年の10月1日から当該年の9月30日まで。

7. 中津市の年齢階級別人口移動の推移

2001年からの中津市の年齢階級別人口移動の推移は、10代後半から20代前半にかけては転出超過となり、20代後半から30代後半にかけては転入超過の傾向にあります。その他の年齢層では転入と転出がほぼ均衡しています。

中津市の年齢5歳階級別人口移動の推移（男女計）



資料：中津市統計資料「市勢要覧」

(注)

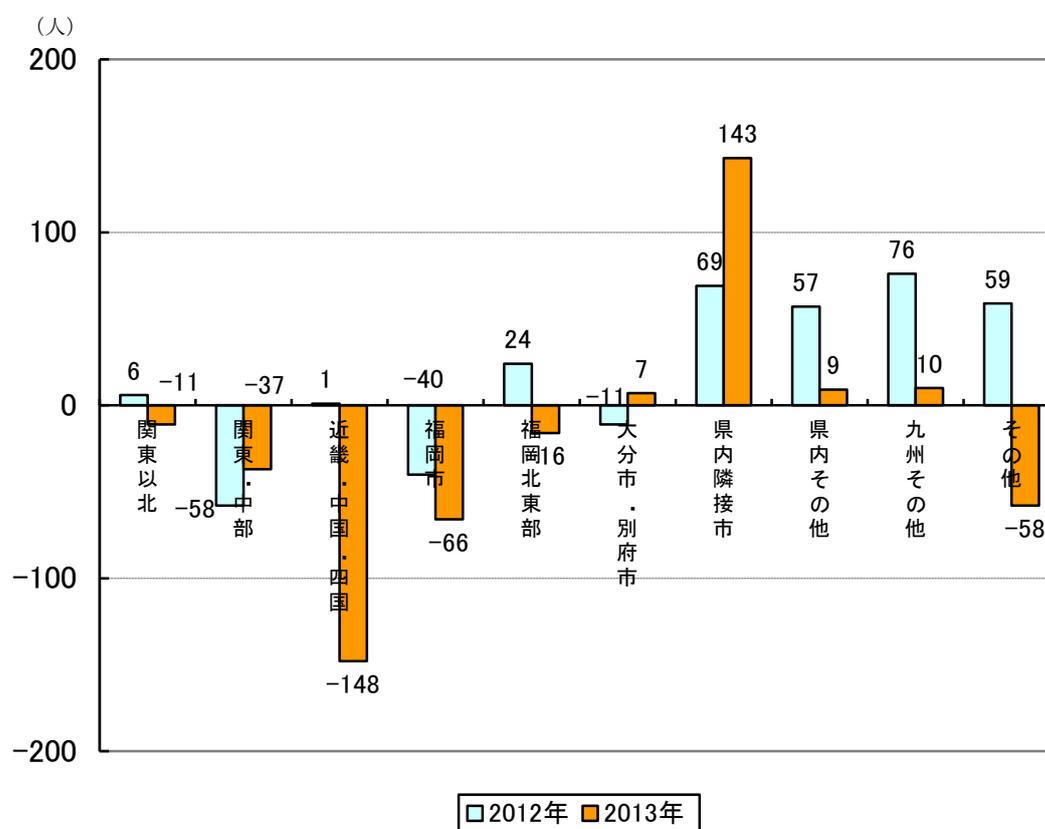
年の区切りは毎年、前年の10月1日から当該年の9月30日まで。

8. 中津市の全国ブロック別人口移動の推移

中津市の全国ブロック別人口移動の推移を見ると、第3章6②でも述べたように、社会動態については年によって変動がありますが、ここ近年では、大分市と別府市を除く県内の市町村や福岡市、福岡北東部の自治体（北九州市・苅田町・行橋市・豊前市・築上郡（築上町、吉富町、上毛町））を除く九州の市町村へは総じて転入超過の傾向となっています。

一方、関東・中部方面や福岡市へは転出超過の傾向となっています。

中津市の全国ブロック別人口移動の推移



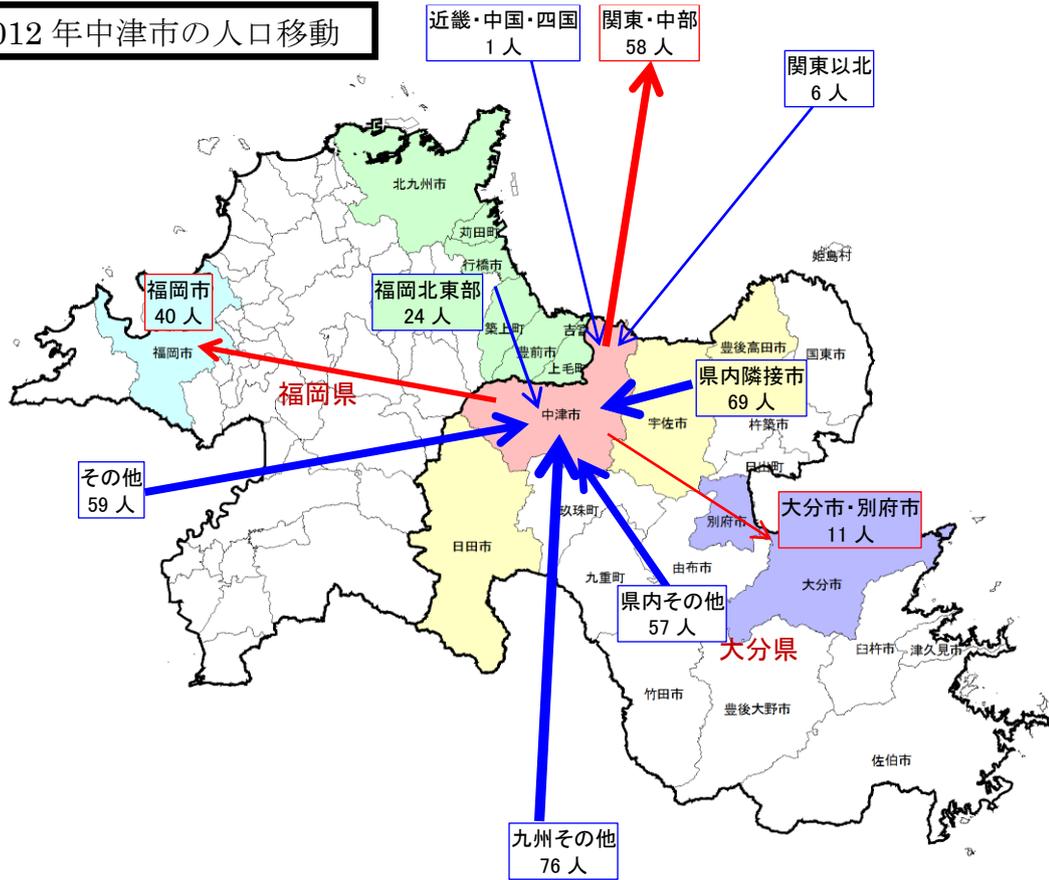
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注)

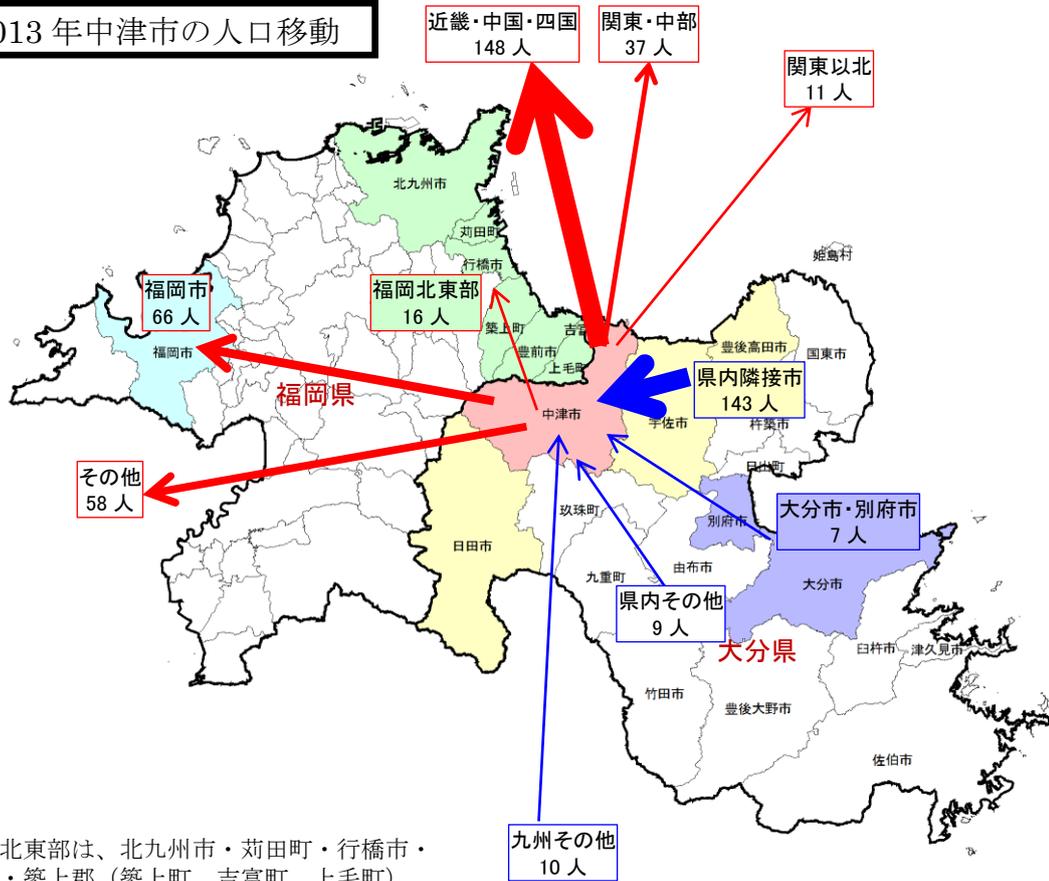
福岡北東部は、北九州市・苅田町・行橋市・豊前市・築上郡（築上町、吉富町、上毛町）

県内隣接市は、日田市、豊後高田市、宇佐市

2012年中津市の人口移動



2013年中津市の人口移動



(注)

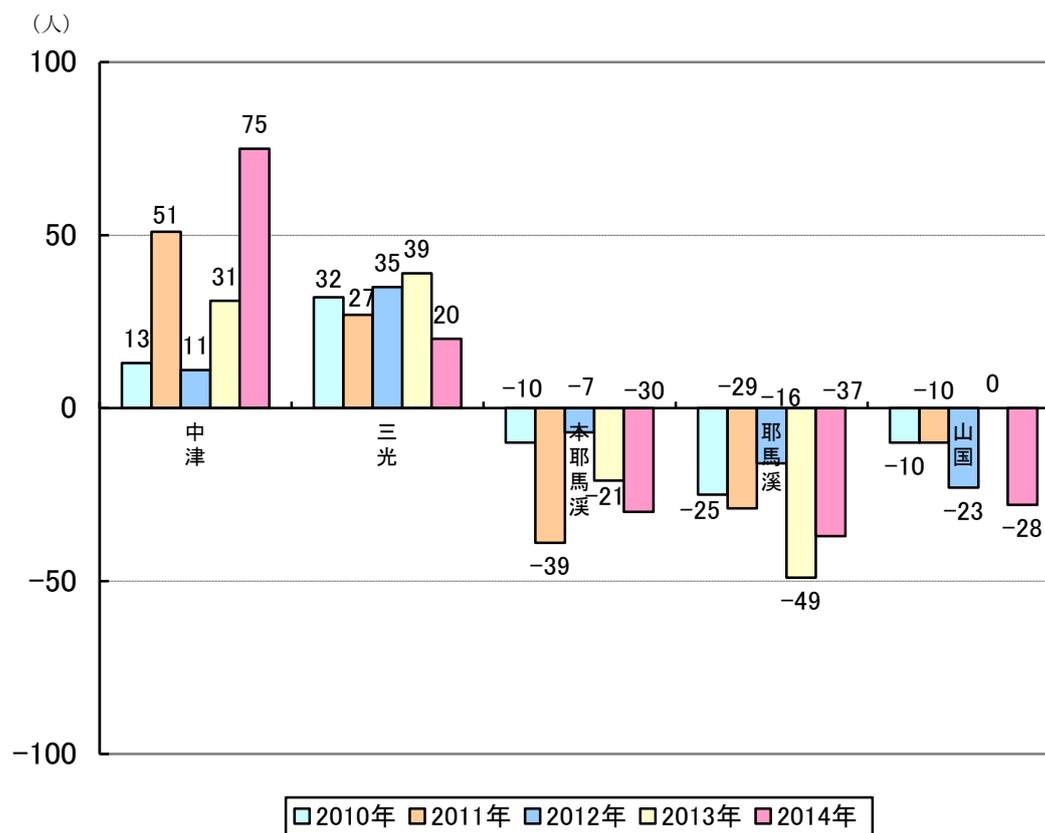
福岡北東部は、北九州市・荻田町・行橋市・豊前市・築上郡（築上町、吉富町、上毛町）
 県内隣接市は、日田市、豊後高田市、宇佐市

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

9. 中津市の市内地域別人口移動の推移

中津市内の地域別人口移動の推移は、2010年以降は中津地域と三光地域は人口流入、本耶馬溪地域、耶馬溪地域、山国地域は人口流出が続いており、中津市内でも人口の集中化の傾向が見えています。

中津市内の地域別人口移動の推移（2010年から2014年まで）



資料：中津市人口統計資料

中津市内の地域別人口移動の推移（2010年から2014年まで）

2010年の転入・転出者数

入\出	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	転入計
中津	-	86	33	42	18	179
三光	120	-	3	3	2	128
本耶馬溪	27	4	-	2	0	33
耶馬溪	8	2	5	-	11	26
山国	11	4	2	4	-	21
転出計	166	96	43	51	31	387

2010年の純移動数



2011年の転入・転出者数

入\出	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	転入計
中津	-	81	55	53	14	203
三光	92	-	8	9	1	110
本耶馬溪	20	1	-	15	3	39
耶馬溪	29	0	14	-	6	49
山国	11	1	1	1	-	14
転出計	152	83	78	78	24	415

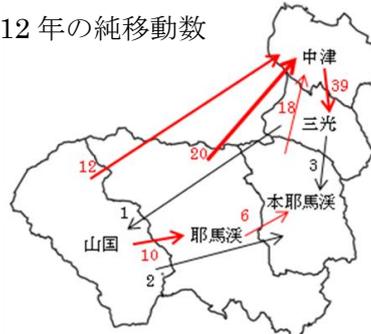
2011年の純移動数



2012年の転入・転出者数

入\出	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	転入計
中津	-	69	46	53	28	196
三光	108	-	3	8	1	120
本耶馬溪	28	6	-	14	3	51
耶馬溪	33	8	8	-	13	62
山国	16	2	1	3	-	22
転出計	185	85	58	78	45	451

2012年の純移動数



2013年の転入・転出者数

入\出	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	転入計
中津	-	69	54	68	7	198
三光	83	-	17	12	1	113
本耶馬溪	53	2	-	8	0	63
耶馬溪	20	2	12	-	5	39
山国	11	1	1	0	-	13
転出計	167	74	84	88	13	426

2013年の純移動数



2014年の転入・転出者数

入\出	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	転入計
中津	-	80	69	56	21	226
三光	85	-	11	10	0	106
本耶馬溪	36	5	-	18	0	59
耶馬溪	22	1	9	-	15	47
山国	8	0	0	0	-	8
転出計	151	86	89	84	36	446

2014年の純移動数



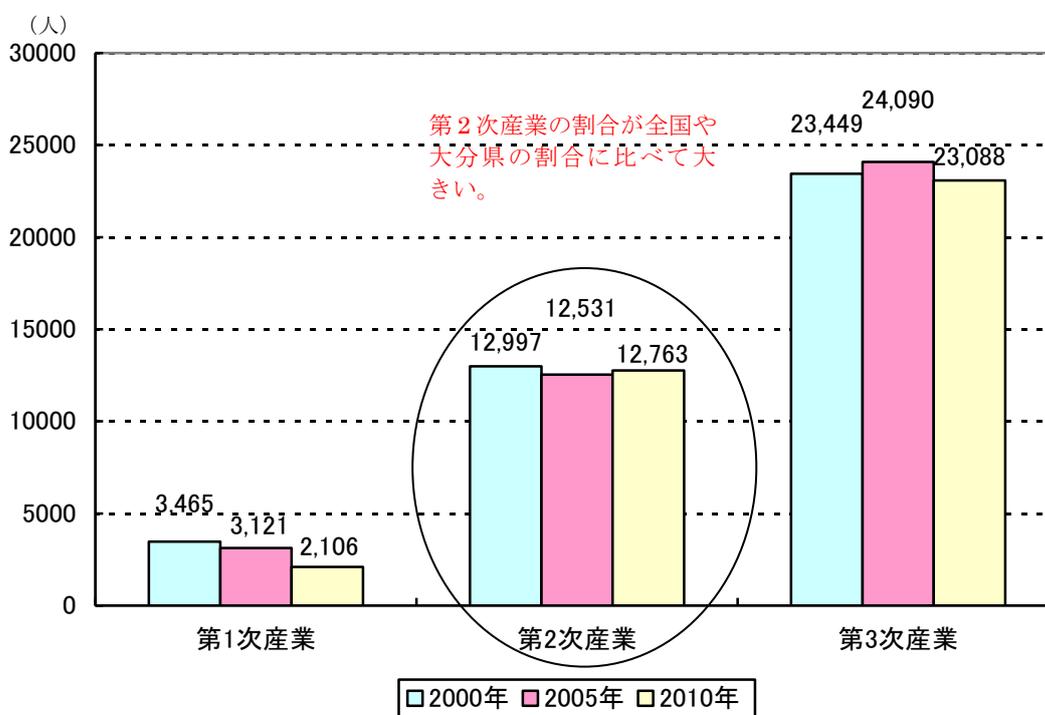
10. 中津市の産業の状況

①中津市の産業3分類別就業者数の推移及び産業大分類別就業者数の状況

中津市の産業3分類別就業者数の推移をみると、2000年以降では第2次産業と第3次産業はほぼ横ばいの状態となっていますが、第1次産業については減少傾向にあります。中津市においては、第2次産業の割合が全国や大分県の割合に比べて大きくなっています。

また、中津市の産業大分類別就業者数は、2010年国勢調査では「製造業」が9,830人と一番多く、以下、「卸売業・小売業」6,280人、「医療・福祉」4,999人、「建設業」2,931人の順となっています。

中津市の産業3分類別従業者数の推移（2000年から2010年まで）



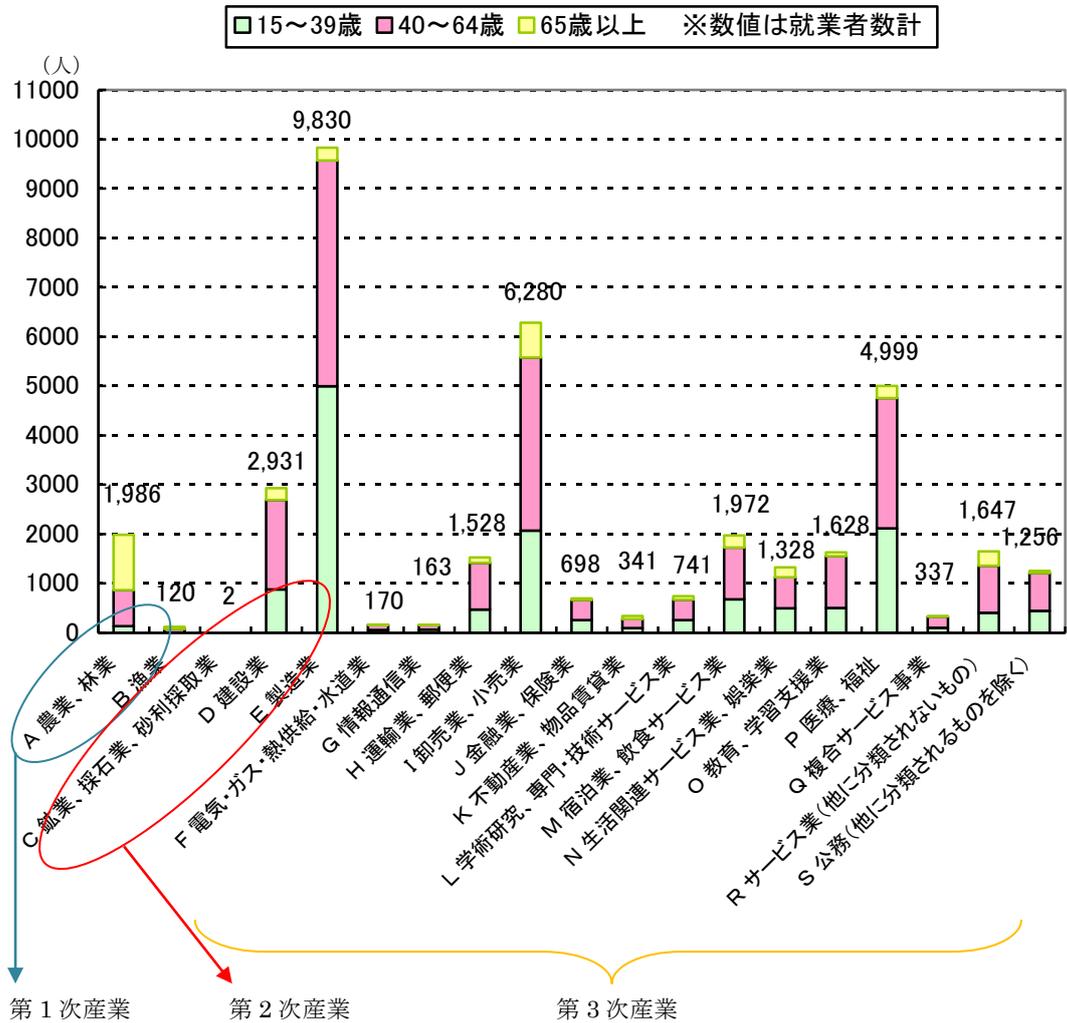
資料：国勢調査

(注)

就業者とは、賃金や給料など収入を伴う仕事を少しでもした人のことをいう。

分類不能の産業は除く。

中津市の産業大分類別就業者数（2010年国勢調査）



資料：国勢調査

(注)

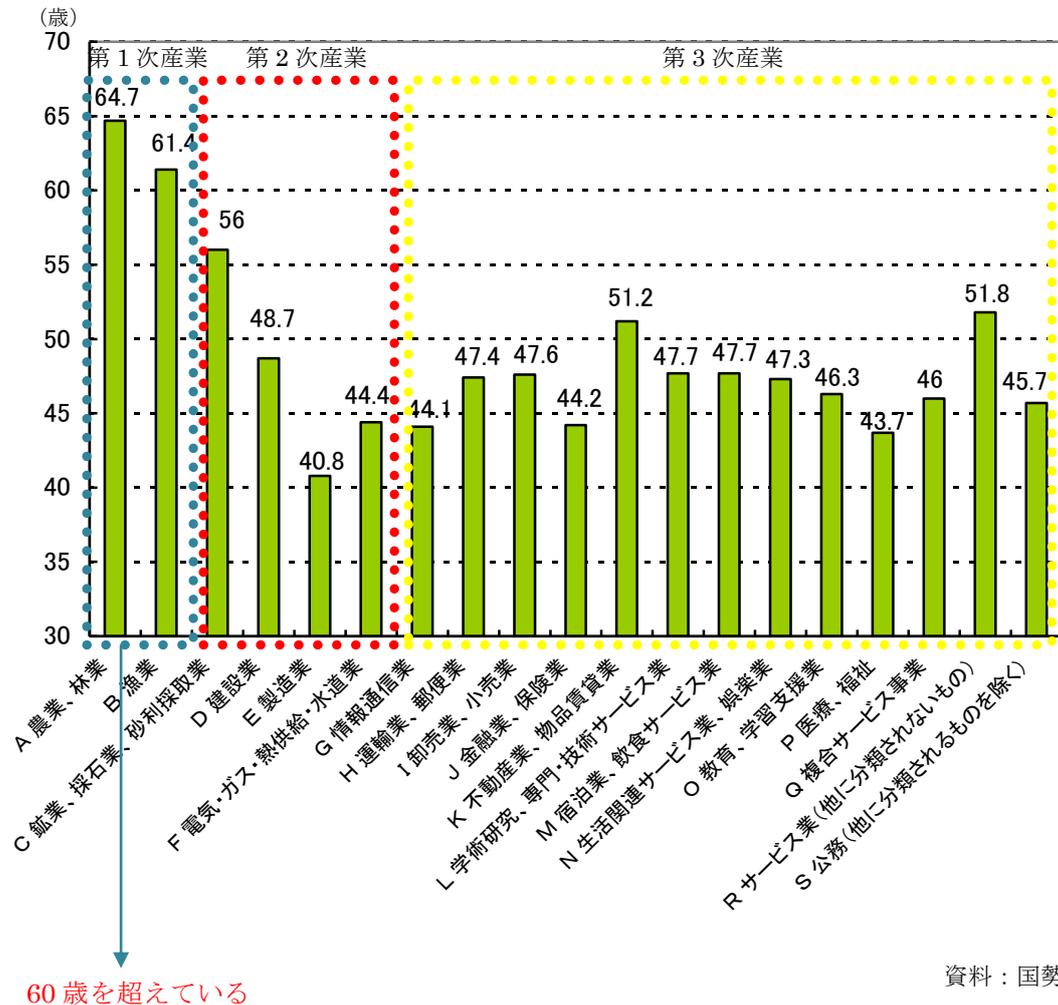
分類不能の産業は除く。

②中津市の産業大分類別平均年齢

中津市の産業大分類別平均年齢は、2010年国勢調査では、全体で45.8歳となっていますが、農業・林業や漁業といった第1次産業就業者の平均年齢が60歳を超えております。

第2次産業、第3次産業については、鉱業・採石業・砂利採取業や不動産業・物品賃貸業、サービス業（他に分類されないもの）の平均年齢が50歳代となっていますが、その他の業種では平均年齢が40歳代となっております。

中津市の産業大分類別平均年齢



(注)

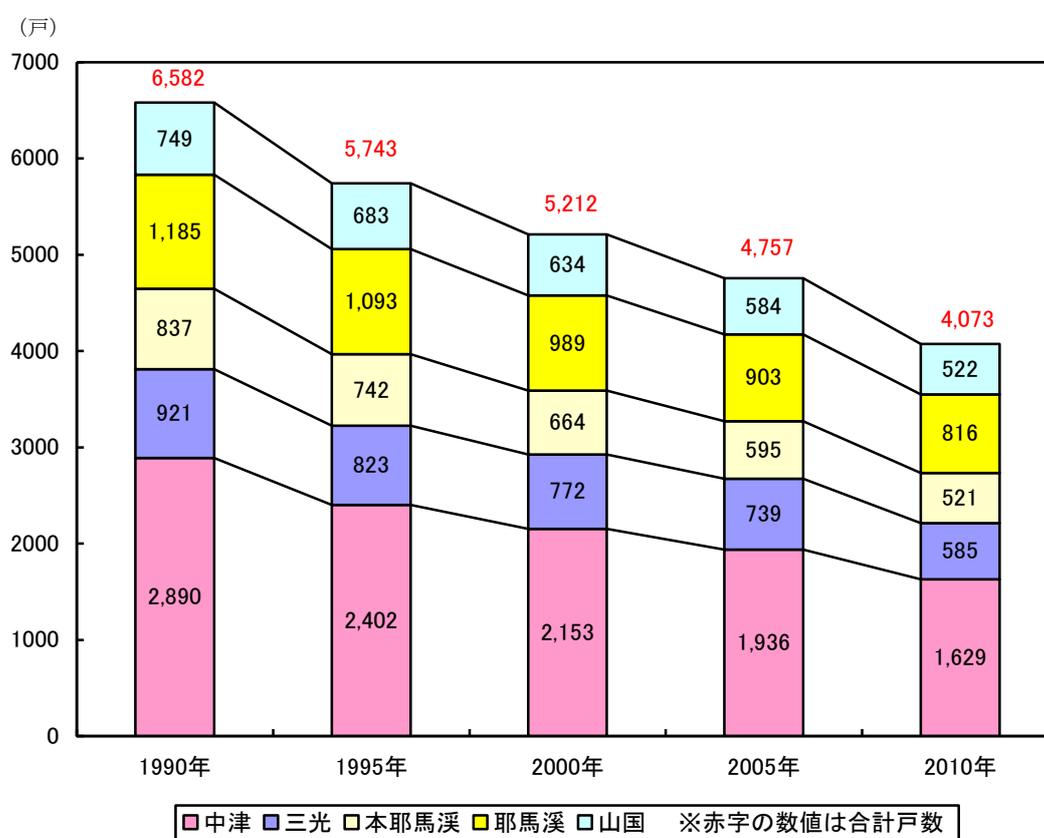
分類不能の産業は除く。

③農家数及び漁業経営体の推移

中津市の農家数の推移をみると、年々減少傾向になっており、2010年は農家数が4,073戸で、1990年の農家数6,582戸と比較して約2,500戸、割合にして約4割減少しております。地域別（中津、三光、本耶馬溪、耶馬溪、山国）にみても、どの地域も減少傾向となっています。

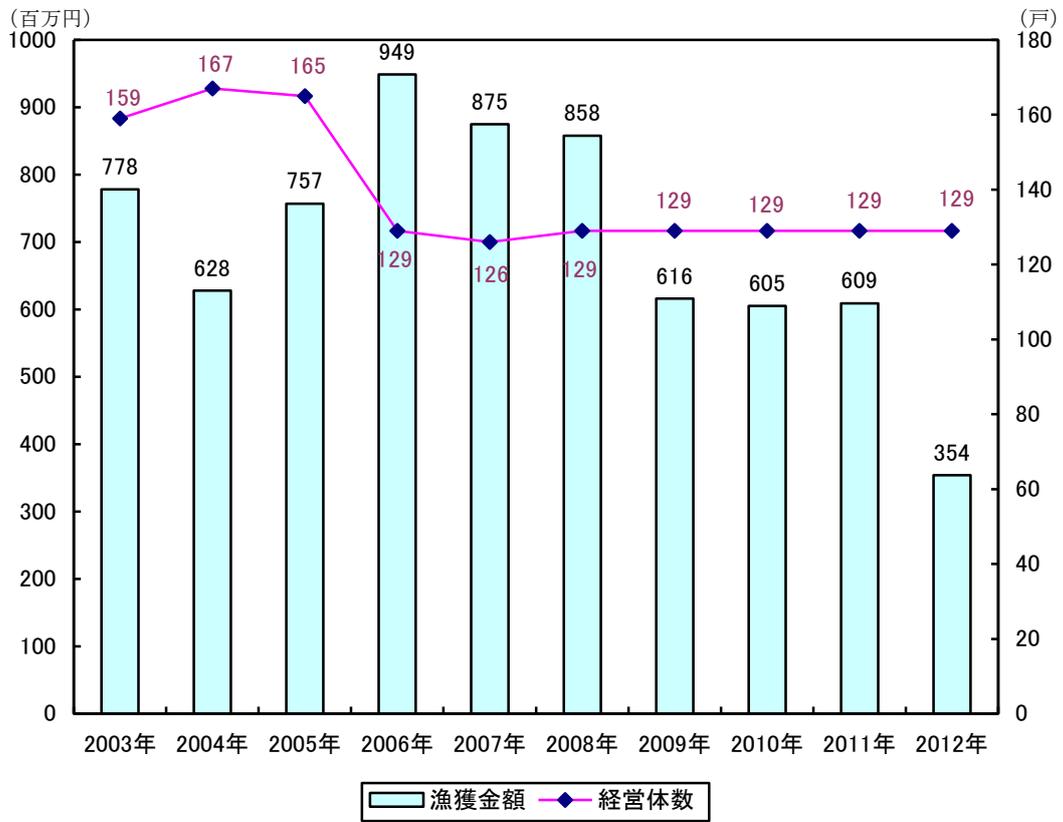
また、中津市の漁業経営体の推移をみると、漁獲金額は、2007年以降年々減少してきております。漁業経営体数は、2005年から2006年にかけて減少しましたが、2006年以降は130戸前後で推移しています。

中津市の農家数の推移



資料：農林業センサス

中津市の漁業経営体の推移



資料：中津市統計資料「市勢要覧」

第4章【目指すべき将来の方向】

1. 中津市における課題

中津市は山国川流域の山間部から周防灘沿岸部まで自然に恵まれた地域であり、この自然を活かして農業、林業、水産業、畜産業とすべての1次産業が営まれています。また近年では、北部の平野部を中心に自動車関連企業の集積が進んでおり、交通面においても、東九州自動車道や中津日田高規格道路等の広域交通ネットワークが着々と整備されつつあることなどから、圏域の中心都市として中津市の持つポテンシャルが顕在化しつつあります。

中津市では「暮らし満足No.1のまち『中津』」を実現するため、こうした都市としてのポテンシャルや市内に豊富にある資源を有効活用し、各施策に積極的に取り組んできた結果、定住人口の確保や雇用に繋がる多くの企業進出を達成し、また県下でも高い合計特殊出生率を維持するなど、一定の成果を上げてきていると言えますが、長期的にみて人口減少のトレンドにあることは変わらず、今後も魅力ある地域を維持していくためには今まで以上に地域のニーズを踏まえた施策を推進していく必要があります。

2. 目指すべき将来の方向

総合計画では、中津市の目指すべき将来都市像を「暮らし満足No.1のまち『中津』」として、「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」の3つの柱により、推進していくこととしています。また、総合戦略は、総合計画に基づいて実施する施策のうち「地方創生」に資する「人口減少の抑制」、「雇用の確保」、「交流人口の拡大」等について重点的に取り組むものです。

これにより、人口減少幅を最小限に抑え、中津市が県北地域の拠点都市として市外・県外からも人や企業を惹きつける「磁力」を持ったまちとなることで、中津市における「地方創生」の実現を目指します。

第5章では、その指標となる将来人口について、関係機関による推計等も踏まえながら、施策の効果を加味して2060年までの推計を示します。

第5章【中津市の将来人口の推計】

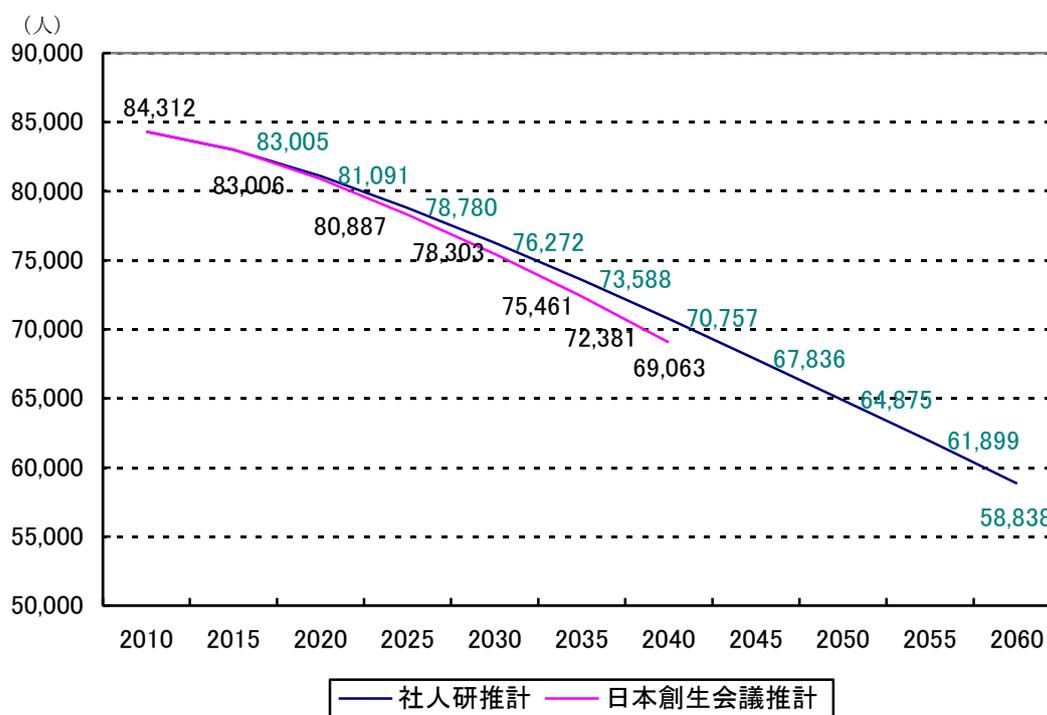
1. 将来人口推計

①国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計と日本創生会議の推計

社人研が発表した「日本の将来推計人口」では、2040年には70,757人まで減少すると推計されています。2045年以降については、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて2060年までの人口を推計した場合、58,838人にまで減少するとされています。

また、日本創生会議が発表した「全国市区町村別将来人口推計」では、中津市の人口は、2040年には69,063人にまで減少すると推計されています。

中津市の将来人口推計（社人研推計、日本創生会議推計）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」
日本創生会議「全国市区町村別将来人口推計」

(注1)

実績（2010年）は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

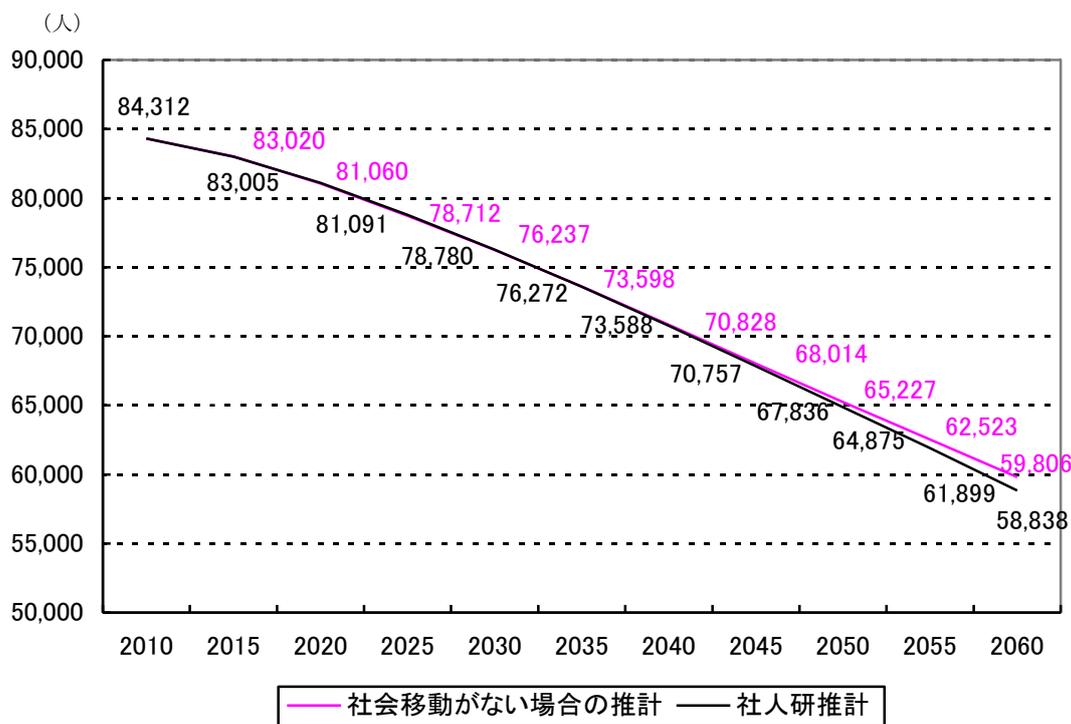
「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」は、出生中位（死亡中位）の仮定による。

②社会移動がない場合の推計（自然増減のみの推計）

社人研の将来推計人口は、自然増減と社会増減の両方を考慮した推計となっていますが、出生や死亡などの自然増減や合計特殊出生率などの条件を変更せずに社会増減がないと仮定した場合について将来人口を推計した場合、2035年までは社人研の推計とあまり変わりませんが、2035年以降は社人研の将来推計人口より多くなる傾向となり、年を経過する程その傾向が大きくなっています。

中津市の人口は、2040年には70,828人になると推計され、社人研の将来推計人口に比べて71人の増となっています。また、2045年以降については、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて2060年までの人口を推計した場合、59,806人になると推計され、社人研の将来推計人口に比べて968人の増となっています。

中津市の将来人口推計（社会移動がない場合の推計）

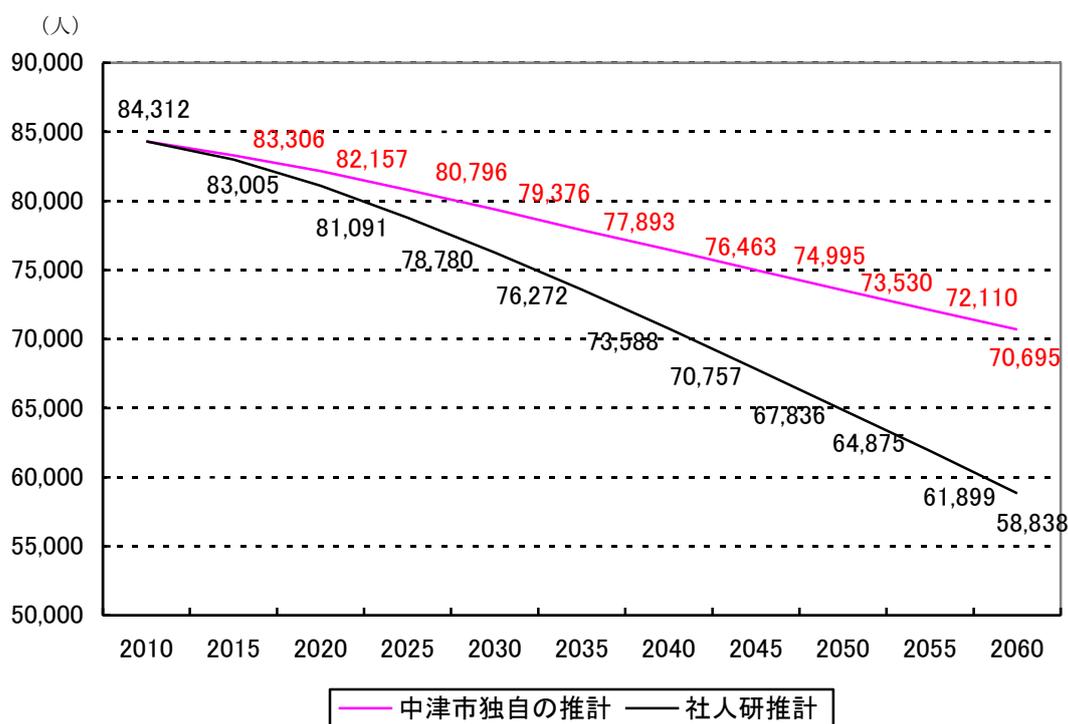


資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」

③中津市独自の将来人口推計（施策の成果が表れた際の人口）

第4章2「目指すべき将来の方向」に基づく施策の成果の積み上げとして表れる社会増などを加味した際の中津市の将来人口は、2040年には76,463人になると推計されます。また、2045年以降については、2040年の生残率や純移動率等をそのまま用いて2060年までの人口を推計した場合、70,695人になると推計されます。

中津市の将来人口推計（中津市独自の推計）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」

(注1)

出生数や死亡数、生残率、純移動率などについては、社人研の推計を使用。

【おわりに】

これまで中津市は、市民との「対話と協働」を基に、様々な施策に取り組み一定の成果をあげてきましたが、今後解決していかなければならない課題も存在します。

中津市が置かれている現状や課題に対して今後何も対策を講じなければ、次第に人口の減少や地域経済の低迷に加えて地域の活性化が失われていくことが危惧されます。

中津市におきましても、人口や経済、地域の課題に早急に対応することが喫緊の課題であると認識しております。

冒頭や第4章2でも述べましたが、中津市版人口ビジョンにおいて人口目標を掲げますが、始めに人口目標ありきではなく、中津市総合計画及び中津市まち・ひと・しごと総合戦略において課題を解決するために行う施策の積み上げの結果として表れる成果を加味した上で人口ビジョンにおける将来人口を推計しています。

中津市総合計画における将来都市像「暮らし満足No.1のまち『中津』」の実現に向けて、中津の力を総結集し、今、住んでいる人がより住みやすく、ずっと住み続けたいと思えるような満足度の高いまちにしていきます。